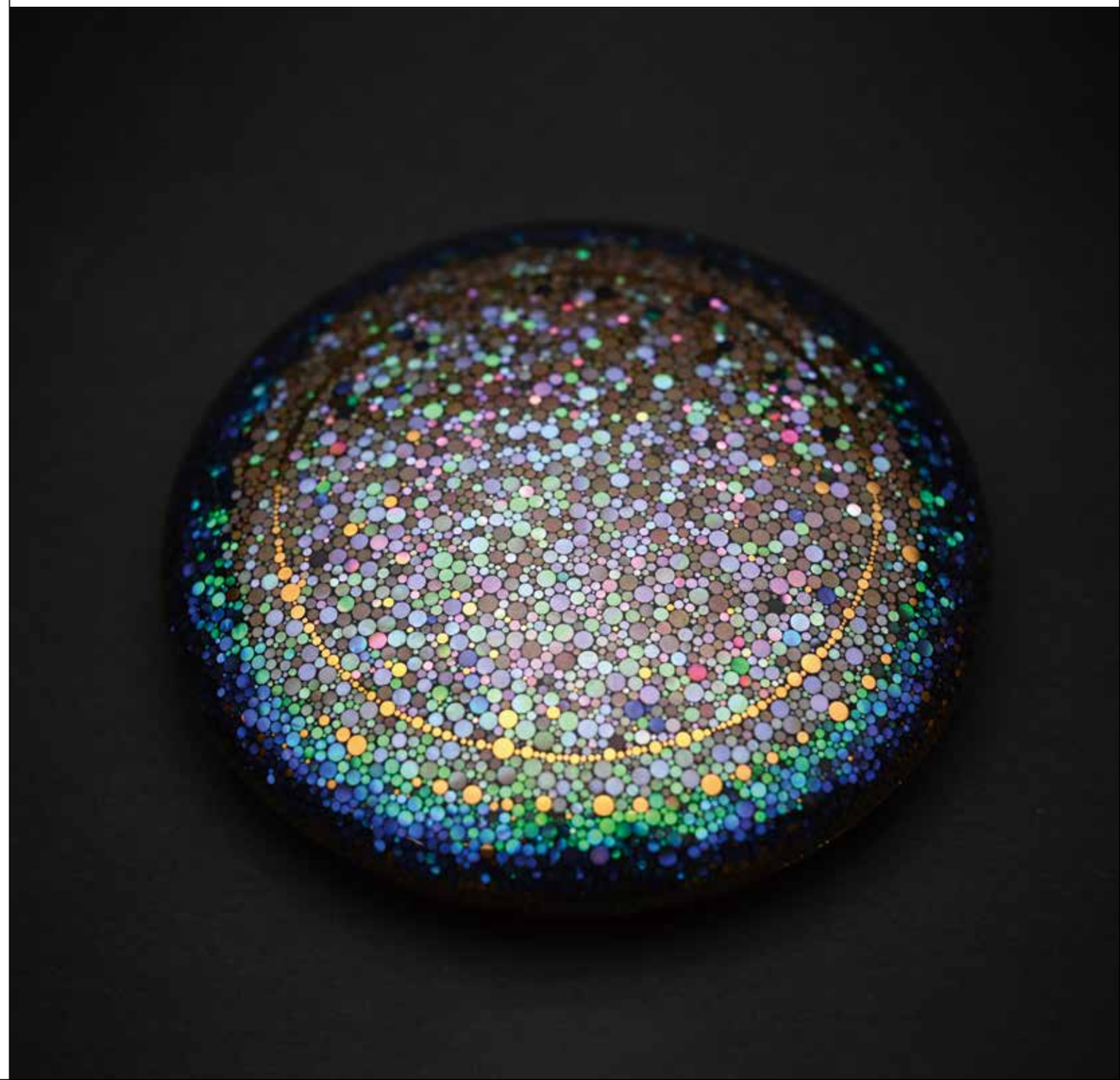
あないまみ
荒殿優花
井川彩子
隗楠
袁方洲
大竹利絵子
大成哲
勝川夏樹
金保洋
亀永百恵
北川太郎
金俊来
洪詩楽
コウミユキ
河野ハルナ
後藤宙
小見拓
佐野圭亮
白谷琢磨
進藤篤
高梨麻梨香
高橋呼春
髙畑雅一
千葉洸里
土井木蓮
戸矢万葉
中澤瑞季
西毅徳
野村絵梨
平尾祐里菜
古川千夏
帆足枝里子
堀田光彦
堀園実
本郷芳哉
本田ゆうすけ
松枝悠希
松本千里
宮原嵩広
武藤亜希子
村上仁美
村越敬太
村田勇気
山﨑稚子
山田千晶
雷康寧
渡辺紫音

AACアーティスト年鑑　二〇二四　発行元　株式会社アーバネットコーポレーション　東京都千代田区霞が関　三ー二ー五　霞が関ビルディング　三五階

AAC アーティスト年鑑

2024



ごあいさつ

「ART MEETS ARCHITECTURE COMPETITION」（AAC）は、2001 年より始まった学生限定立体アートコンペです。当社では、居住者にゆとりと遊びの空間を提供するため、自社開発したすべてのマンションのエントランスホールに彫刻や絵画などの芸術作品を展示して、ミニ美術館のような空間を創っています。その活動の中で、日本では各芸大の受験生は毎年何百人もいて、その中から数十人が入学して、優秀な学生が十数名ほど大学院へ進むことができますが、作品発表の場に恵まれないことから、卒業後も彫刻を続ける学生が 1 人いるかいないかという厳しい現実を知りました。そこで、当社の活動を学生が知ることで、毎年数千棟と建つマンションのエントランスホールに彫刻を置くチャンスがあることに気付いてほしいと思ったことから、AAC を始めました。

AAC では、最優秀賞を受賞した学生の作品が実際にマンションのエントランスホールに常設展示されます。自分の作品が公共の場所に設置されたという実績が、学生にとって卒業後プロとして活動していくうえでの自信につながり、活躍の場を広げるきっかけになればと願って、当コンペを継続してまいりました。協賛企業様のご協力もあり、おかげさまで、当学生限定アートコンペは 20 年以上にわたり継続しており、これまでに延べ約 200 名の入賞者を輩出してきました。卒業後にプロのアーティストとして活躍している若手も多く、私の願いが着実に実現していることを感じています。
そこで、ぜひ、彼らの現在の活動を知っていただきたいと考え、この年鑑を創刊いたしました。年々、アーティストとして成長していく彼らの作品を皆様にご紹介したいと思っております。

当社では、今後もこのコンペを継続することによって、若手アーティストの発掘・支援・育成に努めてまいります。

AAC 主催
株式会社アーバネットコーポレーション
代表取締役会長 兼 CEO　服部 信治

ART MEETS ARCHITECTURE COMPETITION

FOCUS
個展開催
HIRAO YURINA

平尾 祐里菜

AAC2022 最優秀賞を受賞後、2023 年広島市立大学大学院修士課程修了、現在は同大学に助教として勤務。大学では金属造形を学び、植物が魅せる美しい動きや表情を、金属が生み出す独特の質感や色彩を活かして制作する。2023 年9月 19 日～ 24 日、LE METTÉ GALLERY（広島）にて初めての個展を開催。新作を含めた数十点を展示・販売した。

育ち学んだ広島県で初個展を開催することができ、とても嬉しく思っております。
初個展は「語る草花」と題し、金属素材を用いて制作した具象的な植物を、禅語や詩など言葉を絡めた造形作品として展開しました。
会期中は、初日から最終日まで多くの方にご来場いただき、皆様に作品をご覧いただくとともに、貴重なご意見や感想をいただくことができました。そのご意見や感想は私にとって非常に貴重なものであり、これからの作家活動に生かしていきたいと思っております。
今後の展覧会では、作品制作の技術力をさらに高め、造形をより深めた新たな作品の展開を発表できるよう、日々制作に励んでまいります。

平尾さんの現在の活動状況は 19 ページにも掲載しています

Lingering Itch

上：Why so voluptuous heavy?/ 下：展示風景

FOCUS

個展開催

Josephine H.N. LUI

雷 康寧

AAC2018 最優秀賞を受賞後、2019 年、東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻 博士前期課程 修了。現在は彫刻家として活動。主な手法としてテラコッタを用い、人間・動物・植物の様々な生物の形態からインスピレーションを得て、造形的に表現している。着彩を施した精巧な作品は、一見落ち着いた雰囲気を漂わせながら緊張感を放ち、それぞれ奥深い精神性を秘める。2024 年 8 月 31 日～9月１４日､石川画廊（東京都港区）にて個展「流れの中のきらめき」を開催。新作を含めた彫刻、絵画 数十点を展示・販売した。

私は、地球上のすべての存在をつなぐ見えない力があると信じています。同じ世界に住んでいながら、私たちは一つの源から多様な種へと進化してきました。しかし、私たちと異なる存在の中にも、まだ発見されていない知恵が隠されています。私は想像力と個人的な経験を通じて、これらの存在を結びつけようとしています。

「流れの中のきらめき」では、日常の瞬間を捉え、そこに秘められた深い感情や物語を明らかにします。私の彫刻は、動物の形にタトゥーのエッセンスを組み合わせ、独自の言語や記憶、そして生命の感覚を表現したシュールな創作物です。各作品は、人間、動物、植物のシルエットに魅了され、その形の中に潜む深い物語を探り出す様子を映し出しています。

私の創作の旅は粘土彫刻に根ざしており、彫刻と絵画を融合しながら常に新たな挑戦を続けています。この進化の過程で、私の思考は具体的な形と魅力的なイメージへと変わり、独特の生き物たちが物語を紡ぐ幻想的な雰囲気を作り出しています。

この探求は彫刻にとどまらず、彫刻と絵画の間に調和を見出すことを目指しています。私の生き物たちは、単なるアート作品ではなく、幻想的な世界の語り手となります。「流れの中のきらめき」は、すべての存在のつながりと日常の中に隠された深い物語を体験するための招待状です。

雷さんの AAC 受賞作品は 27 ページに掲載しています

AAC アーティスト年鑑

過去の AAC において入賞歴があり、
現在も制作活動を続けているアーティストの
最新作や活動状況を掲載しております。（50 音順 / 敬称略）
なお、右上の QR コードは、アーティストの HP、
SNS へのリンクとなっております。
経歴や活動の詳細はそちらをご確認ください。

ANAI MAMI

あないまみ

うたかた

鏡、熱線反射ガラス、フロートガラス等、主に工業用板ガラス素材を積層し、その塊を削り、磨くことで作品を制作する。通常は平滑で無機質なガラス素材が、研削、研磨によって形を変えることで、表面に新たな表情を現す。ガラスの特性である透過、反射、屈折を生かし、光の変化に反応する作品を心がけている。
鏡やガラスの表面を削ることで、削った部分に映るものは歪みが生じ、削らない部分は通常通り映し出される。同一面に投影される世界は、見る人の視線を揺らがせ、不思議な感覚をもたらす。

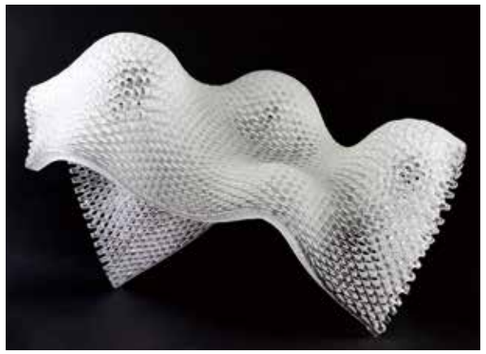
鏡、フロートガラス / H630 × W205 × D32 / 2020 年

2014　多摩美術大学工芸学科ガラス専攻卒業
2016　多摩美術大学大学院美術研究科工芸専攻ガラス領域修了
2018　ガラスアクセサリーブランド a.m.glass 立ち上げる
現　在　アート作品の展覧会、コミッションワーク、
　　アクセサリーの販売を行う

2014　AAC2014 優秀賞
2019　ATAMI BAY RESORT KORAKUEN　OCEAN SPA fuua　作品設置
2021　PARK HOMES 茅ヶ崎中央公園マンション作品設置
　　(art coordinate:ART FRONT GALLERY)
2021　「ガラスの波紋 Part3 あないまみ」小田急百貨店美術画廊展示

IKAWA SAIKO

井川 彩子



Honeycomb-Glass

七夕祭りに並ぶ紙飾りの構造をモチーフにしている。
でんぐりとも呼ばれるその飾りは、最初閉じている状態と、両端を持ち広げた状態では、見せる表情がまるで違う。
紙飾りを広げた時の、わっと心惹かれる瞬間と、窯の中で熱を加えたガラスが変容する瞬間とを重ねた。

ガラス / H340 × W550 × D330 / 2022 年
石川県能登島ガラス美術館収蔵

2002　筑波大学芸術専門学群美術専攻彫塑コース　卒業
2008　東京藝術大学大学院美術研究科工芸専攻ガラス造形研究室　修了
現　在　京都精華大学特別任用講師

2007　AAC2007 優秀賞
2022　国際ガラス展・金沢 2022 審査員特別賞武田厚賞
2022　第 5 回金沢・世界工芸トリエンナーレ　入選
2023　第 9 回現代ガラス展 in 山陽小野田　ホンムラ審査員賞

ARATONO YUKA

荒殿 優花

10^{64}（ソラリ）

10^{64} は日本の命数法で「不可思議」とされる途方もなく大きな数。

私は壺の胴と蓋を取っ手でつなぐことにより“開かない壺”の構造とした自分の作品群にこの名称を用いています。
私の作品世界の象徴体系において、“謎”を表す形象です。

陶 / H340 × W335 × D215 / 2024 年

2016　東京藝術大学大学院 博士後期課程美術研究科
　　（美術専攻彫刻研究領域）修了・博士号取得
現在、陶を用いた作品を中心に制作活動を展開している

2013　AAC2013　入選
2014　AAC2014　入選
2021　「荒殿ゆうか作品展 & 公開制作 OPEN STUDIO」
　　(atelier ABC gallery ／東京都)
2021　「図鑑展ワンダーランド」(藝大アートプラザ／東京都)
2022　「TRATRAT」(The Artcomplex Center of Tokyo ／東京都)

WEI NAN

隗 楠

Blooming

私は動物の命から得た皮革素材は生き物と感じ、その命を漆で姿を留め、再び命の力を感じさせる作品を作りたいと思っています。
皮革を引っ張ったり、皺を付けたりする制作過程の中に、偶発的な形と出会い、その自由な形と美しい曲面を漆で留めることにより、自然の造形のような生命力のある豊かさを表現しています。

皮革、漆 / H930 × W850 × D700 / 2023 年

現　在　京都市立芸術大学大学院美術研究科
　　漆工領域博士後期課程在籍中

2021　AAC2021 最優秀賞
2022　「 新進作家五人展 」京都文化博物館　（京都）
2022　「shall we dance･Lacquer Art by WEI Nan」個展　ギャラリー SOIL（香港）
2023　Collect 2023 ,international art fair for contemporary craft and design
2023　「Slow Culture #kogei」 京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA
2023　「隗楠―漆展―Blooming Lacquer」個展　楽空間祇をん小西（京都）
2023　【パブリックコレクション】ヴィクトリア & アルバート博物館（作品名：Flower of Life Ⅰ）

YUAN FANGZHOU

袁 方洲

Presence and Absence

「- Presence and Absence -」では人・物・自然の不可分な関係を可視化し、ガラス素材そのものの「意識」を通じて彼自身と現実のつながりを確立します。自身の哲学を通じて、人間の無意識な破片の再構築された立体と平面作品は、「中間体」シリーズによる探究を継承しつつ、新たな表現の境界線を示します。

ガラス ／ サイズ可変 ／ 2024 年

2018　清華大学美術学院 工芸学科ガラス専攻卒業
2018　日本ガラス工芸協会 ユース会員
2021　東京藝術大学大学院美術研究科 工芸専攻 陶芸（陶・磁・ガラス造形）研究分野 修士課程修了
2021　東京藝術大学大学院美術研究科 工芸専攻 陶芸（陶・磁・ガラス造形）研究分野 博士号取得

2021　AAC2021 優秀賞
2021　個展：虚実体 The nonentity within the entity（デカメロン 東京）
2021　個展：中間体 Intermediary compound（Tokyo International Gallery 東京）
2023　無の反対側 Presence and Absence（ars gallery 東京）
2022　KUMA EXHIBITION 2022（ANB Tokyo 東京）
ANB Open Studio vol.1（ANB Tokyo 東京）
第 15 回 大分アジア彫刻展（朝倉文夫記念館文化飢脚蟻 大分）
2023　個展：くろの結界 The boundary of black（kuma gallery 東京）
2023　ARTISTS' FAIR KYOTO 2023（京都文化博物館 京都）
2024　個展：「HETEROTOPIA」(STREET DREAMS STUDIOS TOKYO 東京

OHNARI TETS

大成 哲

.moon .mono .homo

人が自然を彫る、形を変えることで生む客体的側面を提示すること、気付きにくい側面を視覚化、再価値する仕事に私は興味を持っています。7m の満月鏡の半分から、この街の家を 1/100 スケールでつくり、鏡の家群をクリスタルに見立てました。
半月は展示場所の街の地図的に分割されています。半月と、その残りからつくられた家群は、同等の物質量を持ち、一つの事象であることを明示しています。これが私の彫刻行為の責任や意味を探究することにもつながっています。

ミラー、ガラス、ワイヤー、真鍮 / H7000 × W7000 × D7000 / 2020 年

1980　東京都生まれ
2004　日本大学芸術学部　卒業
2005　プラハ美術アカデミー留学
2008　東京藝術大学大学院修士課程修了
2022　ヤン・エヴァンゲリスタ・プルキニェ大学（UJEP）芸術デザイン学部 博士号取得

2001　AAC2001　優秀賞
2020　AAC2020　審査員として参加
日芸、東京藝大卒業後、ボーラ財団と文化庁の在外研修制度に採択され、チェコのプラハに海外研修。現在もプラハを中心にヨーロッパで制作活動中。2020 年には AAC2020 の審査員を務める。

OTAKE RIEKO

大竹 利絵子

どこかの子

真鶴市に設置された彫刻です。
沖を行く船や家々の明かり、無数の光が輝いています。
この彫刻も、ひかり続けるものであってほしいと願い制作しました。

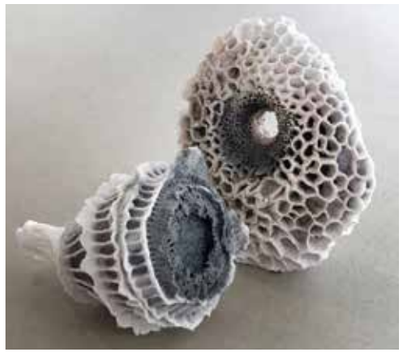
小松石 / H1485 × W450 × D450 / 2020 年

1978　神奈川県生まれ
2002　東京藝術大学美術学部彫刻科卒業
2004　同大学院美術研究科彫刻専攻修了
2007　同博士課程を修了
現　在　東京藝術大学美術学部彫刻科准教授

2006　AAC2006　入選
2012　個展「たぶん、ミミ」（小山登美夫ギャラリー、東京）
2015　個展「Way in, or Out」（8/ ART GALLERY/ Tomio Koyama Gallery、東京）
2021　個展「あなたはどこから来たの？」（小山登美夫ギャラリー、東京）
2023　個展「Hanako」/ 森岡書店 /（東京）
2023　グループ展「手でふれてみる展覧会」/ ギャラリー OGU MAGU /（東京）
少女や鳥鹿などを主なモチーフとして、クスノキやヒノキ、カツラなどを素材とする無彩色の木彫作品を制作する。木の生々しさや美しさを損なわないよう、素木仕上げの手法を貫き、勢いとリズム感のある鑿跡で表面を仕上げる。2022 年には AAC2022 の審査員を務める。

KATSUKAWA NATSUKI

勝川 夏樹



植物標本

私は幼い頃から、植物や菌類、プランクトンなど、さまざまな生き物の生態や形態、生命力に魅了されていました。現在は、自然の中や図鑑、標本などで出会った生き物から着想を得て、それらの印象を元に新しい生き物を表現することに挑戦しています。
ガラス素材の表情は多様であり、制作の中で出会う新しい表情や質感は、私の発想の源となっています。生き物の印象とガラスの質感を融合させ、独自の表現を追求したいと思っています。

ガラス / H550 × W450 × D450 / 2022 年、2016 年

1991　大阪生まれ
2014　近畿大学 文芸学部 芸術学科 卒業
2016　東京藝術大学 大学院 美術研究科 修士課程 修了
交換留学　（ Anadolu University / トルコ ）
2019　North Lands Creative（ レジデンス / イギリス ）
2021　東京藝術大学 大学院 美術研究科 後期博士課程 修了
現　在　近畿大学 文芸学部 芸術学科 非常勤講師

2016　「Stanislav Libensky Award 」大賞（ チェコ ）
2018　「第 7 回現代ガラス展山陽小野田 2018」大賞
「ガラスの植物園」石川県能登島ガラス美術館
2020　AAC2020 最優秀賞
「第 8 回現代ガラス展 in 山陽小野田」市長賞
「ミクロコスモス - 新たな交流の試み」富山市ガラス美術館
2021　「東京藝術大学 大学院 美術研究科 博士審査展」野村美術賞

KANEYASU HIROSHI

金保 洋

遷移する色彩

漆を掻き取った後、木を伐採すると切り株と残った根から新たな芽が生える。これをひこばえという。この作品はそうした漆の生態に着想を得ており、個々の作品が増殖しながら全体を成すものである。ありのままの自然も漆であるが、工芸的な加工を経た姿もまた漆の本質一つであることを、鮮やかな色漆で表現を試みている。

漆、麻布、スタイロフォーム / H250 ～ 2000 × W100 × D100 / 2017-2021 年

1991　東京都生まれ
2020　金沢美術工芸大学大学院 美術工芸研究科
　　博士後期課程 修了 博士 (芸術) 取得
現　在　金沢美術工芸大学技術専門員。金沢市にて活動

2012　AAC2012 優秀賞
2019　「湖北国際漆芸トリエンナーレ 2019- 器・象 -」湖北省美術館 / 武漢
2020　「方法の無意識 - 方法の発露 2020-」旧中村邸 / 金沢
2021　「1st"SHEN SHAO AN PRIZE"International Lacquer Art Competition」福建省沈安漆芸博物館 / 福州
　　「Cheomgju International Craft Competition 2021」Culture Factory/ 清州
2021　「工芸論の動態 -Second Nature-」Gallery 02/ 金沢

KAMENAGA MOMOE

亀永 百恵

つつむかたち

透明なガラスの塊を紙で包み、形の表面部分のみを塗装し浮きただせています。透明なガラスの持つ光や存在感を可視化し、素材のエネルギーをもっと身近に感じて欲しいと思い制作しました。

ガラス / H150 × W200 × D80 / 2022 年

1992　富山県生まれ
2015　金沢美術工芸大学 彫刻科　卒業
2017　富山ガラス造形研究所 造形科　卒業
現　在　富山県・石川県を中心に年２～３回グループ展等の展覧会に参加。
　　ガラスを使った立体や平面作品の制作を行う。

2016　AAC2016 入選
2022　グループ展「SIX vol2」小矢部市
2022　個展「Shape」砺波市
2023　グループ展「海の幸あれ」高岡市
2024　グループ展「第 13 回宝円寺ガラス展」金沢市

KITAGAWA TARO

北川 太郎

北川太郎　時のかたち

2024 年 8 月 20 日～ 12 月 8 日
兵庫県立美術館で開催される展覧会
兵庫県立美術館　常設展示室 5

2007 ～ 2010　文化庁新進芸術家在外研修員（3 年派遣員・ペルー）
2023　文化庁新進芸術家在外研修員（短期派遣・イタリア）

2006　AAC2006 優秀賞
2019　「真鶴町・石の彫刻祭」（神奈川）
2021　「ユニバーサル・ミュージアム―さわる！“触”の大博覧会」（国立民族学博物館、大阪）
2021　「すべての ひとに 石が ひつよう」（ヴァンジ彫刻庭園美術館、静岡）
2022　「これってさわれるのかな？？ 彫刻に触れる展覧会」（神奈川県立近代美術館鎌倉別館）
2022　「DOMANI・明日展　2022-23」（国立新美術館、東京）
2024　「北川太郎　時のかたち」（兵庫県立美術館）

KIM JUNRAE

金 俊来

EOS

エーオースはギリシャ神話に登場する暁の女神の名。
太陽が川の上に昇る姿を漆の伝統手法である変り塗りと
螺鈿を用いて仕上げました。見る人々が日の出のパワーを授かり
明るく健康な毎日を過ごせるよう願いを込めた作品です。

漆、螺鈿 / H890 × W700 × D200 / 2019 年

1979　韓国生まれ
2007　韓国、建国大学絵画学部韓国画専攻卒業
2015　京都市立芸術大学大学院美術研究科
　　修士課程漆工専攻　修了
2019　京都市立芸術大学大学院美術研究科
　　博士課程漆工専攻　修了
2019 ～ 2022　京都市立芸術大学漆工専攻非常勤講師

2016　個展開催（ギャラリーアーティスロング、京都）
2016　AAC2016 入選
2017　AAC2017 最優秀賞

KOHMIUKI

コウミユキ

"Stand Up!" Series

バケツの底できらめく泥

スタンドアップは、一般に流通している量産型の座った犬の置物を一度壊し、再構築して立ち上がらせています。中古品で購入する置物の中には、既に壊れたものや捨てられた背景を持つものもあります。座った犬が立ち上がることがどのような意味を持つのか、人により様々ですが、私たちの場合は「犬は従順に主人の帰りを待つもの」というような価値観の呪縛から解放され、自由に野原へ駆け出していくイメージで制作しています。

座った置物、毛、角材、ラメ、カルサイト / サイズ可変 / 2023 年

現　在　美術 / 彫刻ユニットとして活動中

2017　AAC2017 入選
2018　「キツネの蜂蜜がけマーチ」広島芸術センター / 広島
　　「Tokyo Midtown Award 2018」東京ミッドタウン / 東京
2019　「瀬戸内国際芸術祭 2019」アサリ養殖場横倉庫 / 小豆島
2020　「LUMINE meets ART AWARD 2019-2020」ルミネ新宿 / 東京
2021　「そこはすみか」Media Shop Gallery/ 京都
2023　「Before/After」広島市現代美術館 / 広島

GOTO KANATA

後藤 宙

Heterogen

雪の研究で有名な中谷宇吉郎は「失敗作こそ美しい」といって、研究データをまとめる上では歓迎されないような、法則性に当てはまらない結晶を愛したという。合理化、画一化を求めてきた社会において芸術の持てる価値というのは、そういった「異分子で在る」ということのように思う。時に失敗作と揶揄されようが、システムの中における変数もしくは乱数として存在し続ける。
そんな異分子の実験が本作である。

鉄、ワイヤー / H1230 × W630 × D50 / 2018 年

1991　東京生まれ
2018　東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻終了

2016　Tokyo Midtown Award アート部門グランプリ
2016　SICF16 スパイラル奨励賞
2017　AAC2017 優秀賞　ほか 受賞多数
幾何学的な法則性やトーテム的表象をモチーフとして作品を制作している。

KONO HARUNA

河野 ハルナ

らしきもの

人は常に演じて生きていると考えています。
ヒーローなどを演じるスーツアクターのように、様々なスーツを着て、
本当の自分を隠して生きているのではないでしょうか。
この作品は、ネコのように見えますが背中にファスナーがついています。
動物からふとしたときに、中に人がいるのかな、と勘違いしてしまうほど、
人間らしさを感じる瞬間があります。
めまぐるしく変化する現代社会において、自由を求めて人がネコを演じていても
おかしくないかもしれません。
目の前のネコは本物ですか、らしきものですか。

テラコッタ・ファスナー / H300 × W350 × D250 / 2018 年

2013　福島大学人間発達文化学類スポーツ・芸術創造専攻　卒業
2015　福島大学大学院人間発達文化研究科地域文化創造専攻　修了

2013　AAC2013 入選
2014　第 68 回福島県総合美術展覧会　福島県美術賞　福島民友新聞社長賞
2015　「あたらしい AIZU の美術展」
2015　第 89 回国展彫刻部　新人賞（《貪食》）
2016　「あたらしい AIZU の美術展」
2019　「脈 ― FUKUSHIMA」
2022　「アートでつなごう 3.11 をこえて福島展」

KOMI TAKU

小見 拓

人態 – 2

生きている物をつくるにはどうしたらよいのだろうか。体の内側に目を向けていくと様々な構造体によって構築されていることが分かってくる。それらの部分を取り出して拡大しつくってみるて、集めて、再構築することでここに現れるのではないかと試みている。

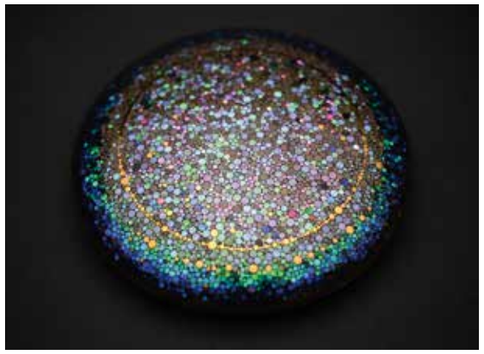
黒御影石 / H960 × W880 × D960 / 2021 年

1991　新潟県生まれ
2013　長岡工業高等専門学校電子制御工学科　卒業
2017　武蔵野美術大学彫刻学科　卒業
2019　東京藝術大学大学院彫刻専攻　修了

2017　AAC2017　入選
2019　個展開催（ギャラリー SOL）
2020　シプヤ・アロープロジェクト - 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い活動が
　　制約されているアーティスト応援企画　選考通過
2023　「METORO ART PASSAGE」（メトロ銀座ギャラリー / 東京）
2023　「体を組む」個展（スペースコウ / 東京都）
2023　「<石の彫刻>展」グループ展（ギャラリーせいほう / 東京都）

SANO KEISUKE

佐野 圭亮



乾漆螺鈿切金香合「彩の瀬」

美しい国の美しい技。
明滅を眺めているとそれはまるで生命のパルスのような、その光の向こうには言葉では綴られる事のない真理が整然と佇んでいる気がします。
奈良時代には日本にあった「螺鈿」(らでん)。令和の今も新たな螺鈿を求めて。
乾漆螺鈿切金香合「彩の瀬」(いろのせ)
漆 / H20 × W72 × D72 / 2023 年
（表紙掲載作品）

1994　群馬県高崎市生まれ
2017　東京芸術大学美術学部工芸科卒業、
　　同大学大学院入学 2020 同大学大学院修了
2020 ～　群馬県高崎市を拠点に制作活動を開始、
　　現在に至る。

2018　AAC2018 優秀賞
2023　陶と漆の二人展 綿貫哲雄・佐野圭亮 / ギャラリー FROM まえばし
2023　藝神展 / 東京芸術大学アートプラザ
2023　KANSEI アート展京都 洛宙 [希望の宙] / 京都泉涌寺
2023　KOUGEI ART FAIR2023/ ハイアットセントリック金沢
2024　伊藤ミナ子・加藤 萌・佐野圭亮・千葉 功 漆芸展　「漆芸の地平の彼方へ」/ ギャラリー田中 銀座
2024　生命の賛美展 /Enishira Stream Gallery 金沢
荒川区立図書館ゆいのもりあらかわ 荒川区 デンバー美術館 Denver Art Museum（DAM） USA

SHINDO ATSUSHI

進藤 篤

THE TOWER

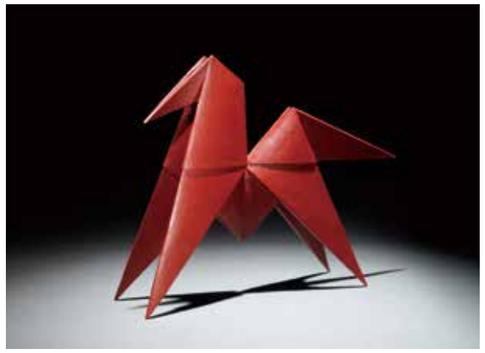
光をみつめる塔
ゆっくりと流れる時間や光の変化を見つめている。
カメラオブスキュラの原理により、風景が光の粒へと分解され、
スクリーンに反転したイメージとなって現れる。
複数の眼が個々に見るイメージが重なり合う中で、
空は地へ、地が空へと溶け合ってゆく。
Rokko Meets Art 2015 での展示作品
スチール、ガラスレンズ / H4000 × W400 × D400 / 2015 年

1991　千葉県生まれ
2016　東京藝術大学大学院修了
現　在　インテリアデザイナーとしてホテル・オフィス・商業空間等のデザインに携わる。個人プロジェクトは、"ATMOSPHERE（空気感）をデザインする " ことをテーマに据え、さまざまな領域を渡り探究する。空間・インテリアオブジェクト・アート作品等、多岐にわたる作品を発表。

2014　AAC2014 優秀賞
2023　Milano SaloneSatellite 2023, Italy
2023　ELLE DECOR Young Japanese Design Talent
2023　Young Designer Award 2023, Interior Lifestyle Tokyo
2024　Milano Salone Satellite 2024, Italy

SHIRATANI TAKUMA

白谷 琢磨



赤馬

折り紙による直線的で簡素な形態も目の前のモチーフの再現に留まらず、どこか別の世界を想起させるに至り、それは信仰や祈りに近いものだと解釈しています。
日本に古くから伝わる檜、漆、岩絵具など長い時間の流れに耐えうる素材、技法を使うことで、それらの偶像化を試みています。
檜 漆 / H210 × W260 × D60 / 2024 年

1994　佐賀県生まれ
2019　東京藝術大学美術学部彫刻科卒業
2021　同大学院美術研究科彫刻専攻修了
2017 年より 2023 年まで「D.B.Factory」にて彫刻家 大森暁生氏のアシスタントスタッフを勤める。

2019　AAC2019 最優秀賞
2024　白谷琢磨×森田直樹 二人展「ひとつのすがた」/ ORIE ART GALLERY（東京）
2024　SICF25 exhibition 部門 / スパイラルホール（東京）
2024　第 7 回 Brillia Art Award 入選
2024　千葉県アーティストフォローアップ事業伴走型採択

TAKANASHI MARIKA

高梨 麻梨香

スプラッシュ！
水戸 AIR2023 成果展　個展「杳」

茨城県水戸市に約 3 ヶ月間滞在し、水戸の地形や歴史、震災のあとをたどるリサーチを重ねた高梨は、民俗学と境界論の視点から、新たな「ミ戸」のサウンドスケープを展開した。「杳」とは奥深く暗いさま、事情がはっきりしないさまなどの意味合いを持つ。時間や空間でつながった総体としての海は、秩序と混沌、破壊と生成などの要素を常に抱えながらダイナミックに動いている。杳として知れない現実と自身の両義性を両目を開けて確かめたい。
フォグマシン、スピーカー、レーザー / サイズ可変 / 2023 年

1995　秋田県秋田市生まれ
2020　秋田公立美術大学 美術学科 景観デザイン専攻 卒業
2023　秋田公立美術大学大学院 複合芸術研究科 修了

2022　AAC2022 入選
2023　巡回展「ちくご AIR2023 成果展」九州芸文館、福岡県 / アーツ千代田 3331、東京都
2023　個展「スプラッシュ！水戸 AIR 高梨麻梨香成果展「杳」」、club space BUBBLE、茨城県
2023　2 人展「断片の輪郭—Outline of Fragments—」井上デンキセンター地下、大分県
2023　個展「音のなかで聞く -It is what we hear in sound-」BAR Stella、福岡県
2024　グループ展「清島アパート 2023 活動成果展」transit、大分県
2024　個展「project space hazi AIR 高梨麻梨香成果展「旅の hazi はかきくけこ」」project space hazi、愛知県

TAKAHASHI KOHARU

高橋 呼春

一線

私たちは自然を完全に制御することはできない。
だからこそ、人の意思と自然は制作過程で一体となり、
作り手に新しいかたちをもたらす。
漆と木材と自分の手が呼応するよに、かたちを探り、触感を求める。
そうして生まれた漆黒の鏡面は、永遠に連なる時間の中で、
反射と吸収を絶えず繰り返す。
私たちが見ている実在と非実在に揺らぎを与え、境界を曖昧なものにする。

クリ、漆 / H90 × W6030 × D50 / 2023 年

2021 筑波大学芸術専門学群　卒業
2023 筑波大学大学院人間総合科学研究科博士
　　前期課程芸術専攻クラフト領域　修了
現在　石川県立輪島漆芸技術研修所普通科？漆　在籍

2023　令和４年度筑波大学大学院博士
　　前期課程芸術専攻　優秀作品賞
　　AAC2023 入選
2024　グループ展
　　「URUSHI TAMAGO PROJECT WAJIMARU」
　　（石川県立美術館広坂別館 / 金沢）

TAKAHATA MASAKAZU

髙畑 雅一

火焔華

陶彫。熱による物質溶融実験。陶器による炎の表現。
平和であったとされる１万 2000 年間の縄文時代の暮らしをリスペクトし、
思想風習、人々の暮らし、自然、日本各地の天然素材、技術、造形を研究している。
陶器による「用」と炎の造形による「美」の造形表現である。

陶土 / H380 ×W 200 × D 220 / 2024 年

2021　大阪市立大学大学院　学術博士号取得

1999　WINSOR&NEWTON 国際絵画コンクール　日本代表
2000　国際連合郵政局西暦 2000 年記念切手絵柄採用
2006　日タイ交流勅撰芸術勲章　受勲
　　世界芸術平和貢献賞（ロシア共和国）　受賞
2017　AAC2017　入選
2018　AAC2018　入選
2019　AAC2019　入選
2022　ボローニャ 1000 年 芸術キング賞　受賞
2023　ルクセンブルク芸術賞コンクール芸術功労証書
　　（ルクセンブルクビナコテークより）
　　日本芸術院賞新設 80 周年記念「日本芸術最高賞」　受賞

CHIBA HIKARI

千葉 洸里

redrawing series-2

紙に描いたドローイングの線をもとに陶の作品を制作しています。
ほんの数秒ほどの短い時間で描いた線を、何倍もの時間をかけて
土で形づくり焼成する。
土が私の手の動きに呼応するように少しずつ積み上がっていく。
その中で描いた線とはまた違った新たな線が生まれていくような
感覚があります。
土でかたちを作ることは手でドローイングをしているようにも思
えます。
描いた線が私の手によって確かな存在となり、昇華していくこと
を目指しています。

陶 / H205 × W220 × D160 / 2023

1996　東京都生まれ
2019　多摩美術大学 美術学部 工芸学科 陶専攻　卒業
2021　筑波大学大学院 人間総合科学研究科 博士前期課程
　　芸術専攻 クラフト領域　修了
現　在　埼玉県にて制作活動中

2020　AAC2020　入選
2021　令和２年度 筑波大学大学院 博士前期課程 芸術専攻
　　優秀作品賞　受賞
2022　第４回いりや KOUBO 準大賞　受賞

DOI MOKUREN

土井 木蓮

朝露とかみなり

この作品は９月に岡山での個展のメインになった彫刻です。
岐阜県関ケ原町に移住し石の彫刻制作をしている傍らで地域おこ
しの一環で土日だけ珈琲屋さんをして日々を過ごしています。
ある時子供たちから絵のお手紙をもらいました。
そこには関ケ原の戦いに参戦した武将たちが敵味方関係なく仲良
く私のお店のドリンクを飲んでいる姿が描かれていて　大人でも
忖度してもなかなか描かない東西の武将たちが仲良くする姿にと
ても胸を打たれてしまい、平和の尊さを再認識させてくれました。
子供たちの将来が平和で明るくあってほしいと心から願い、命の
尊さや循環、自然との共存をテーマに岡山という土地柄も相まっ
て戦国モチーフで作品を展開する個展になりました。

黒大理石 /270 × 700 × 620 / 2024 年

1989　奈良生まれ
2017　東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻　修了
2018　東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻学研究生修了
現　在　　岐阜県関ケ原町を拠点に活動

2017　AAC2017　優秀賞
　　東京藝術大学修了制作展　首席買い上げ賞
2018　和歌山県濱宮神社天皇陛下ご即位記念彫刻制作、設置
2019　和歌山県紀三井寺にて閻魔大王像制作協力、設置
2023　「The god Asklepios」制作協力　熊本総合病院設置
2024　個展「朝露とかみなり」 岡山天満屋美術画廊

TOYA MAHA

戸矢 万葉

SUI 酔

土や砂を焼き、形が生まれたのは、漆と同じ縄文時代です。土は、身近な存在であり、どれだけの月日が経ち現代に科学的な発展が起きようとも、この素材は今日も変わらない姿で私たちの目の前にありつづけ、その形を保つことができます。私は焼成すれば何千年、何万年と残りうる素材を「時の痕跡を残す術」として捉え制作を進めてきました。

陶 / W300 × D250 × H350 / 2023 年

2017　京都市立芸術大学院 美術研究科 陶磁器専攻 修士課程 修了

2016　AAC2016 入選
2020　渋谷パルコ陶器売り場 / OIL GALLARY by 美術手帖（東京）
2021　物と視点 / kumagusuku（京都）
2021　ECHO / OHARANO STOUDIO GALLERY（京都）
2021-22　滋賀県立陶芸の森アーティスト イン レジデンス（滋賀）
2021　OBJECT / 京都岡崎蔦屋書店（京都）
2022　溶ける視点 / FINCH ARTS（京都）※個展
2022　亀山トリエンナーレ 2022 / 旧舘家住宅（三重）
2023　柔かな風景 西村涼 / 江ノ子島文化芸術創造センター（大阪）※レジデンス・展覧会キュレーター
2023　セラミック・シナジー展 / 京セラ美術館（京都）※予定
2023　国立台南芸術大学　アーティスト・イン・レジデンス（台湾・台南）予定 ※本採用決定

NISHI TAKATOKU

西 毅徳

Koive

フィンランドの HIAP というプログラムに参加し制作した作品。タイトル「Koive」はフィンランド語で白樺を意味し、着想はその美しく直線的な幹、風に揺れる葉の動きであり、その中でも今回は白樺の葉の動きを、映写フィルムのように捉え、一枚ずつ切り取るというアイデアに至った。スチールバンドを加工し、編むことで膜のような形状を作り、「引っ張りとたわみ」によって生じる造形が、その場所に沿った空間を生み出す。

スチール製巻きバンド、ボルトナット / H3670 × W8200 × D1200 / 2023 年

2021　東京藝術大学 博士後期課程 美術研究科 美術専攻 デザイン研究領域 第３研究室 修了
2021　東京藝術大学 博士後期課程 美術研究科 美術専攻 建築研究領域 構造計画研究室 入学
2023　TOKAS 二国間交流事業プログラム 派遣クリエーター，
　　HIAP – Helsinki International Artist Programme（フィンランド）
2024　Ateljé Stundars guest artists（フィンランド）

2017　AAC2017 入選
2022　JID AWARD 2022, 大賞 , 特別審査員 中村拓志賞，２部門受賞（日本）
2023　Red Dot Design Award: Design Concept, 建築部門 ,
　　Red Dot 賞 受賞（ドイツ , シンガポール）
　　A' Design Award and Competition, 建築部門 , 建築構造設計 ,
　　SILVER A' DESIGN AWARD 受賞（イタリア）
2023　LIT LIGHTING DESIGN AWARDS 2023, 建築照明デザイン部門 /
　　Daylight, 新鋭最優秀建築デザイン賞 受賞（スイス）
2024　LICC - London International Creative Competition 2023,
　　BUILD (建築) 部門，Best of　受賞（イギリス）

NAKAZAWA MIZUKI

中澤 瑞季

皆、どの人も、誰でも

この作品は木とセラミックを組み合わせて作っている。表面にはファブリックを貼り付け部分的に木の表面を覆い隠す。東京ディズニーランドのイッツアスモールワールドは一見愉快なアトラクションだが、そのポップな表面の彩からは奥に何かが隠れているような亡霊性を感じる。またこの亡霊性は、幼少期に親しんだ玩具のパッケージやアニメのキャラクターからも感じられる。亡霊のような愉快さは､私たちが生きるためにどれほど必要なのか｡貼り付いて取れない表面の彩を、定まらない人の形に重ねて共存させた。

木、セラミック、人工毛 / H2500 × W1600 × D1500 / 2024 年

2024　東京藝術大学　大学院美術研究科　彫刻研究領域　修了

2022　天王洲セントラルタワー　「top fermentation」
2022　第 25 回　岡本太郎現代藝術賞　入選
2022　AAC2022 入選
2022　第３回　始弘賞
2023　コートヤード HIROO「アトムアートアワード 2023」
2023　東京藝術大学美術研究科　博士審査展
2023　始弘画廊　「彼方の園の模様」
2023　アトムアートアワード 2023　TOYAMA 賞
2024　日比谷ミッドタウン「木と生きる」
2024　始弘画廊　「宙へ向かう面と目」

NOMURA ERI

野村 絵梨

Living

この作品群は、作家の生活空間にあるものを元に、3D モデリングとカービングの技術を組み合わせて制作したものである。人形遊びのおもちゃのような形をした生活用品や家具は、出品を重ねるごとに少しづつ変化し、作家の身辺の状況を加筆更新している。

スタイロフォーム、水性パテ、ウレタン塗料 / サイズ可変 / 2023 年

1990　東京都生まれ
2019　東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻 修了

2017　AAC2017 入選
2018　コミテコルベールアワード 2018
2021　「SILHOUETTE, SCHATTEN」/ エースホテル京都 / 京都
2022　「複号の彫刻家たち展」/ ファーレ立川街区 / 東京
2023　「垢も身のうち」/ AMMON TOKYO & WADA GAROU TOKYO Lab. / 東京

HIRAO YURINA

平尾 祐里菜

草坐達磨 – 干柿・葦 –

草坐達磨 / そうざだるま

草坐達磨とは、江戸時代に活躍した禅僧 白隠慧鶴がよく描いた題材でもあり、達磨が葦（蘆・アシ）の葉上に坐している図様です。また葦は達磨を象徴する植物でもあります。

本作では葦に坐る達磨を、干柿に見立てて造形しました。初めは渋く食べられない柿ですが、どんどん甘味を増し熟してゆく姿が、坐禅をし続け精神を高めようとする達磨の姿に重なりました。

銅、台座：古板（室町時代）/ H170 × W350 × D210 / 2023 年

2021　広島市立大学 デザイン工芸学科
　　金属造形分野 卒業
2023　広島市立大学大学院 芸術学研究科
　　造形計画研究 金属造形研究室 修了
現　在　広島市立大学 芸術学部 デザイン工芸学科
　　金属造形分野 非常勤助教

2022　AAC2022 最優秀賞
2023　ART LOUNGE PROJECT #2
　　（岡山県 / 杜の街グレース・杜の街プラザ Le Mette Adeline）
　　語る草花（広島県 / L gallery）
　　万里一空（東京都 / 日本橋高島屋 S.C. 本館 6 階美術画廊）
2024　青花ネット 4 周年記念特別出品（seikanet / オンライン）
　　生命の賛美展 – 生きとし生けるものへの眼差し –
　　（石川県 /Enishira Stream Gallery）

HOASHI ERIKO

帆足 枝里子

Scene No.2

「土」は大地を連想させます。そして「土」が創り出すヒビや亀裂は、大地が循環する様や時間の流れを感じさせるように思います。

ヒビや亀裂を用いて描き出す様々な模様や、一般的な「土」のイメージにはない彩色は、想起されるものの幅を広げ、さらに鑑賞者固有の記憶や経験を通して多くのものに見立てられ、様々な感覚を呼び起こすことができるのではないかと考えています。

FRP / H1300 × W1300 × D100

2016　女子美術大学大学院 博士後期課程 美術研究領域 立体芸術研究分野 修了
現　在　女子美術大学 美術学科 立体アート専攻 准教授

2012　AAC2012 最優秀賞
2018　ニケ キュレーターズ セレクション #03 帆足枝里子 展
2021　第 6 回 東京国際美術祭 2021
2021　国際彫刻交流展
2021　METORO ART PASSAGE
2022　第 7 回 東京国際美術祭 2022
2022　第 3 回 オーストリア日本現代美術展 2022
2022　METORO ART PASSAGE
2023　第 8 回 東京国際美術祭 2023
2024　第 15 回 茨城一陽展　茨城県つくば美術館
2024　第 9 回 東京国際美術祭 2024

FURUKAWA CHINATSU

古川 千夏

琳

私の作品は有線七宝技法を用いて制作しています。従来の七宝には無い可能性を探し、素材や技法の固定概念にとらわれない独自の展開によって、新しい七宝表現にたどり着きました。完成時には研ぎ消えてしまう銀線をあえて研がず強調することによって得られる美や煌めきを表現しています。

七宝、純銀 / H300 × W400 × D350 / 2019 年

2018　広島市立大学大学院芸術学研究科
　　造形芸術専攻造形計画研究金属造形研究室　修了
現　在　広島県のアトリエにて制作、
　　七宝作家として活動

2016　AAC 2016 最優秀賞
　　第 5 回そば猪口アート公募展　準大賞（'17 審査員賞）
2017　金沢・世界工芸コンペティション 入選（'19）学長奨励賞（広島市立大学）
2018　広島市立大学芸術学部 卒業・修了作品展　優秀賞
2019　大徳寺龍光院看松庵　作品収蔵
2021　41st Artwork Competition DAEGU INTERNATIONAL GRAND EXHIBITION 優秀賞
2021　いい芽ふくら芽 in FUKUOKA 優秀賞、月刊アートコレクターズ賞、オーディエンス賞
個展、グループ展多数

HOTTA MITSUHIKO

堀田 光彦

Existence

日本の伝統的な真土型鋳造法を利用し、原型のない作品を制作した。従来、主として鋳造されてこなかった体を取り巻く空間を鋳造をする事で人の存在や名残、残留思念などをテーマに作品を作っている。また工芸の技法である２種の金属を一つの型に流し込む「吹き分け」を彫刻作品に取り入れている。

黒味銅、真鍮 / H700 × W450 × D430

1991　福岡生まれ
2016　武蔵野美術大学造形学部彫刻学科　卒業
2018　東京藝術大学大学院 美術研究科 工芸専攻鋳金研究分野 修了
2019　東京藝術大学大学院 美術研究科 研究生 修了
2022　長野県東御市地域おこし協力隊　退任
現　在　東京藝術大学美術学部工芸科鋳金研究室 教育研究助手
　　株式会社 TR2 取締役 COO 兼 クリエイティブ＆デザイン部門担当

2016　AAC2016 優秀賞
2017　第 9 回佐野ルネッサンス鋳金展 奨励賞
2018　AAC2018 優秀賞
2022　個展 堀田光彦展 ー Enpathy ー（長野県）

HORI SONOMI

堀 園実

呼吸のモニュメント

美術家の友人と富士山の頂上で待ち合わせをした。先に「境界」という共通の創作意識から森林限界をテーマにしたグループ展を決めており、そのためのフィールドワークを決行したのだ。初の富士山登頂の私の身体は未知の領域を経験し、普段頼りにしている視覚や聴覚はすっかり自分のものではなくなってしまった。大きく膨らんでいく肺がゆっくりと冷たい空気を送り込む。駄々広い空の中、唯一呼吸は私の現在地を知る手がかりであった。

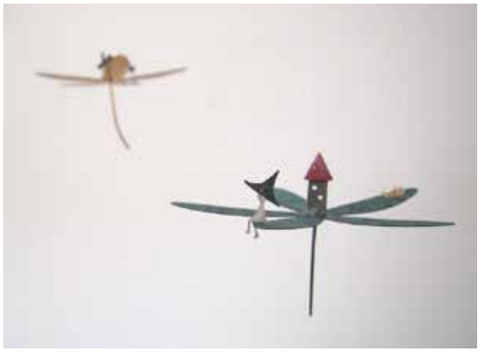
石膏 / H81 × W50 × D22 / 2023 年

2009　沖縄県立芸術大学大学院彫刻専修 修了
2016　平成 28 年度文化庁新進芸術家
　　海外派遣制度（パリにて 1 年美術研修）

2006　AAC2006 最優秀賞
2018　なみうちぎわの協和音 Emerging2018（トーキョーアーツアンドスペース本郷 / 東京）
2019　なみうちぎわの協和音 めぐるりアート静岡 2019（静岡県立美術館 / 静岡）
2021　Developing（静岡市文化・クリエイティブ産業振興センター CCC/ 静岡）
2023　ファルマコンの再生 - 生の祭壇（アトリエみつしま / 京都）
　　森林限界を超えて Beyond the Timberline（Gotemba Apartment Store/ 静岡）
2024　静岡県立美術館 移動美術展 リレーション（夢づくり会館 / 静岡）
　　ファントム Art @東静岡（東静岡アート＆スポーツ ヒロバ / 静岡）

HONDA YUSUKE

本田 ゆうすけ



flower

**静かな動き、ゆっくりとした動きは、人を惹きつける。
少しぼーっと眺めてしまう。
日々の中でゆっくりと過ごす時間を作りたい。
金属は、重い、硬い、冷たい、というイメージがあって
それとは違い
軽い、柔らかい、温かいという表現を追求している。
金属が作り出す色、空気がその世界を表現し、
日常を彩るインテリアとして
静かで穏やかな時間、空間を提案していきたい。**

銅、真鍮、洋白、ステンレス / H300 × W250 × D250 / 2023 年

2006　東北芸術工科大学 美術科 金属工芸専攻 卒業
　　同大学　金属工芸　アシスタント
2010　宮城県東松島市にてアトリエ POPPO を構え制作活動
　　（2016 年に栃木県那須塩原市に移転）
2011　妻のすずきひろみと一緒にアトリエ POPPO として活動する

2004　AAC2004 優秀賞
2009　第 27 回　朝日現代クラフト展　優秀賞（阪急うめだ本店／大阪）
2012　個展　～ Sing a moment ～（清課堂ギャラリー／京都）
2016　本田ゆうすけ×すずきひろみ金工展（カンケイマルラボ／宮城石巻）
2018　POPPOworks「冬のおくりもの」展（ギャルリアルブル／宮城仙台）
2019　アトリエ POPPO「空をうたうモビール展」（インテリアスタジオアーテリア／高崎）
2021　宮城県仙台市藤崎百貨店にて宮城のモビールシリーズを 6 作品 1 年間通して発表
以　降　年 4，5 回アトリエ POPPO として各地を個展巡回しています。

HONGO YOSHIYA

本郷 芳哉

Photo by Kenryou Gu

存在の空白 - 坐佇

**私は「生きるとは何か？」を問うていきたいと考えています。私にとって彫刻の制作は、素材と向き合うことによって、その先にある世界との繋がりを感じ取り、その感覚を確認し、積み重ねていくことだと感じています。
「空白」シリーズでは、この世界の中での在り方について思索し、彫刻として現しています。**

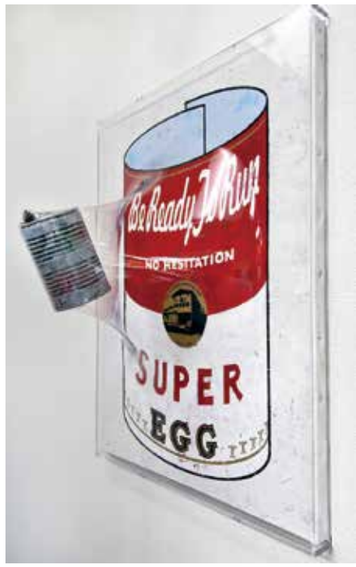
アルミニウム（表面の色彩は腐食による）
H2550 × W1150 × D900 / 2022 年

1982　埼玉県生まれ
2007　沖縄県立芸術大学美術工芸学部彫刻専攻卒業
2009　東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了

2009　AAC2009 優秀賞
2022　「KYOTO Ninnaji Omuro Art 4.8 Project　本郷芳哉」（御室仁和寺 / 京都）
2023　「越後妻有　雪の様相 I 」（越後妻有里山現代美術館 / 新潟 / 日本）
　　「本郷 芳哉展 View」（ギャラリーせいほう / 東京）
コレクション (抜粋)
名古屋マリオットアソシアホテル（愛知県）/ 三井ガーデンホテル神宮外苑の杜プレミア（東京都）/
笠間日動美術館（茨城県）/ RESIDENCE INN HENDERSON Square mile（香港）

MATSUEDA YUKI

松枝 悠希



Be Ready to Run ! paint

ミクストメディア / H420 × W420 × D300 / 2023 年

1980　茨城県生まれ
2010　東京藝術大学大学院後期博士課程 修了

2009　AAC2009 入選
2024　Yuki Matsueda Solo Exhibition, SHUN Art Gallery/ 上海
2024　OUT OF THE BOX,TouchGallery/ 香港
2024　Be Ready to Run!, 高島屋 / 大阪
2023　DEPARTURES,Koichiyamamura Gallery/ 東京
2023　BETWEEN, 伊勢丹新宿 / 東京

MATSUMOTO CHISATO

松本 千里

呼吸の輪郭

これは絞り染めの過程で生まれる布を絞った立体的形状を電動機器によって動かしている作品です。
絞り染めは本来であれば紋様を出す技法ですが、私は絞った形を抽出して、古来の技法から新しい表現を展開しています。
絞りをよく見るとしわの入り方など、細かい個性があります。絞りの群れは拮抗や同調し、何か話し込んでいたり、調子にのって飛び出したりと生き物のように一粒一粒が呼吸し活動しています。

ポリエステル布、ミシン糸、電動機器 / H1200 × W2700 × D200 / 2023 年

1994　広島市生まれ
2023　広島市立大学 芸術学研究科
　　博士後期課程　終了

2017 「Tokyo Midtown Award2017」 優秀賞
2018 「第 21 回広島市立大学芸術学部卒業・修了作品展」 優秀賞・広島市立大学芸術資料館買上
「2018 年度広島市立大学学長奨励賞」 受賞
「呉海軍病院開設 130 周年記念行事・呉医療センター・中国がんセンター芸術賞」 最優秀賞
2020 「六甲 ミーツ・アート 芸術散歩 2020」 公募大賞 準グランプリ
「第 23 回広島市立大学芸術学部卒業・修了作品展」 優秀賞
2022 AAC2022　入選
2023 「松本千里展 - 懸 -」 東京・福岡 / みぞえ画廊福岡店・田園調布ギャラリー
「神戸アートマルシェ 2023」兵庫 / 神戸メリケンパークオリエンタルホテルみぞえ画廊 booth

MIYAHARA TAKAHIRO

宮原 嵩広

NullPointer Exception

アスファルトでできた猥雑な像の突端から噴き出る液体。表面がピンク色に蠢く姿はすごくフェティッシュでジョルジュ・バタイユのいうところの「腐った太陽」みたいで腐乱した生のエネルギーに満ち満ちている。

アスファルト合材、シリコンオイル、その他 / H1820 × W2100 × D2100

1982　埼玉県川口市生まれ
2003　バンタン映画映像学院スペシャルメイク（特殊メイク）コース 卒業
2012　東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻 修士課程 修了

2011　AAC2011　最優秀賞
2012　The Armory Show（Piers 94 / ニューヨーク）
2013　物質と彫刻―近代のアポリアと形見なるもの（東京藝術大学陳列館 / 東京）
2015　個展「missing matter -sculpture’s dogma-（川口アートファクトリー / 埼玉）
2017　清流の国芸術祭 Art Award In the Cube 入選（岐阜県美術館 / 岐阜）
2018　そとのあそび展 ～ピクニックからスケートボードまで～（市原湖畔美術館 / 千葉）
2020　Sustainable Sculpture（KOMAGOME SOKO / 東京）
2021　ATAMI ART GRANT 2021　Color ATAMI（ニューアカオ / 熱海）
2022　Art walk dojima/nakanoshima（Nakanoshima banks / 大阪）
2023　EASTEAST_TOKYO2023（Beams Cultuart Booth / 東京）

MUTO AKIKO

武藤 亜希子

M＋A＋T＋S＋U

海が近い町に生えている松の木の、曲がりながら伸びていくさまをかたちにした作品。着物地や合成皮革で制作した、たくさんの枝パーツがつながり、松の風景が広がります。どの方向に伸び、どんな大きさになるかは、展示空間により自在に変化していきます。

着物地、合成皮革、綿、その他 / 寸法可変 / 2019 年

2006　東京藝術大学大学院博士課程満期修了
現　在　各地で子どもや親子向け等のワークショップを多数開催している

NHK E テレ「いないないばあっ！」「あそびのくに」(2015)、歌「あたらしい いちにち (2020) のセット原案デザインなど

2005　AAC2005 最優秀賞
2009,2012,2015　越後妻有アートトリエンナーレ 大地の芸術祭（新潟）
2018　廃材アート展（浜田市世界こども美術館 , 島根）
2019　記憶の中の風景（千葉市民ギャラリー・いなげ , 千葉）
2021　つくりかけラボ 03 C+H+I+B+A ART シェアばたけ（千葉市美術館 , 千葉）
2021　C＋H＋O＋F＋U のかけら植物園（調布市文化会館たづくり , 調布）
【パブリックコレクション】
浜田市世界こども美術館（作品名：海の庭 H＋A＋M＋A＋D＋A）

MURAKAMI HITOMI

村上 仁美

滅びの風

生命のサイクルやその永遠についてをコンセプトに制作しており、今作は九相図をモチーフに制作しています。身体が朽ちる九段階を一人の人物に背負わせることによって生と死の同居する景色を作り出すことを目標にしています。

陶 / H650 × W300 × D100 / 2021 年

1990　大阪府出身
2013　愛知県立芸術大学美術学部美術科彫刻専攻卒業
2016　愛知県立瀬戸窯業高等学校セラミック陶芸専攻科卒業
2017　愛知県立芸術大学大学院美術研究科彫刻領域修了

2013　AAC2013 最優秀賞
2018　個展「常世の庭」（ロイドワークスギャラリー／湯島・東京）
「ブレイク前夜～次世代の芸術家たち～ Part Ⅱ」（Bunkamura Gallery ／渋谷・東京）
「Field Of Now」（銀座洋協ホール・ロイドワークスギャラリー／銀座・東京）
2020 「村上仁美個展　浮生」（GINZASIX 蔦屋書店）
「村上仁美個展 Signals from far away.」（ぎゃらりい秋華洞）
ONE ART Taipei 2020（The Sherwood Taipei・秋華洞／台北）
2022 「村上仁美個展　真夏のグロッタ」（Bunkamura box gallery）

MURAKOSHI KEITA

村越 敬太

火は継がれる

焼き物という人類のモノづくりにおける根源的な行為を通して、自分と一万年前の人類との素材を介した繋がりを実感する。
世界の歴史や時間の流れの中にある物語性を作品として形象化。生命の進化や文明･文化の誕生と発展などを陶という不可逆な素材で形に残し、古代遺跡や建造物を「人類の力強い営みの象徴」として、また超自然に対する「畏敬と探究心の象徴」として表現し、今日に至るまでの歩みとこれから先への繋がりを伝えていく。

陶 / H470 × W550 × D550 / 2023 年

1999　神奈川県生まれ
2022　多摩美術大学美術学部工芸科陶プログラム　卒業
2024　多摩美術大学大学院美術研究科工芸専攻陶領域　修了

2022　AAC2022　入選
2022　神奈川県美術展　入選
2022　「アートアワードトーキョー丸の内 2022」（丸の内オアゾ 1F ○○広場 / 東京）
2023　神奈川県美術展　入選
2023　個展「No Name Land」開催（多摩美術大学工芸棟ギャラリー / 東京）
2024　「ねんどやきもの劇場 2024」（ふなばしアンデルセン公園 子ども美術館 / 千葉）

MURATA YUKI

村田 勇気

PAINT-7

無垢の木材を彫刻することによって厚塗り絵画の筆致を具象的に再現した作品。
近現代美術史において作家や各派の独自性を代理してきたのは主題よりもむしろ手捌きを反映したテクスチャーであるという解釈に基づき、造形要素を異素材に隔離する脱構築によって、今日の絵画を支えるのは素材の物神性と技巧に対するフェティシズムであるという歪みを提起する。

木、塗料 / H740 × W490 × D70 / 2023 年

2016　東京藝術大学大学院美術研究科 彫刻専攻　修了

2015　AAC2015　入選
2016　第 10 回 秀桜基金留学賞
2016　アートアワードトーキョー丸の内　グランプリ
2019　第 23 回 岡本太郎現代芸術賞　入選
2020　A-SCRIBE　（ギャラリー無量／富山）
2020　IN-SCRIBE　（西田美術館／富山）
2021　CIRCUM-SCRIBE　（ギャラリー無量／富山）
2023　TRAN-SCRIBE　（Luogo Arte Contemporanea ／ヴェローナ／イタリア）

YAMAZAKI WAKAKO

山﨑 稚子

Mountains

京都は盆地で周りを見渡すと山がみえる。私の家の近くには大文字山という山があって、幼い頃から度々散歩に行く感覚で大文字山に登っていた。
私はいつも山をみていた。しかし、ただ山をみているのとは何か少し違う。私は多分連続する日々というフィルターを通して山をみているのだと思う。そして私は山をみながら何か別のものをみている気がする。

布 / H129 × W79 / 2023 年

1995　京都生まれ
2018　広島市立大学 彫刻専攻　卒業
2020　東京藝術大学大学院彫刻専攻　修了
2021　文化服装学院服飾研究科　卒業
現　在　京都市立美術工芸高校常勤講師

2020　AAC2020 優秀賞
2021　入選「群馬青年ビエンナーレ」
2023　個展「Over the Mountains」（金柑ギャラリー、東京）

YAMADA CHIAKI

山田 千晶

ひとつになれないままで

凶暴性をおさえることも、理解し合うことも出来ないまま共に在る、
心の中に住まう私のかいじゅうとの歪な関係を表現しました。
幻獣である、神秘的な印象と凶暴性を併せ持つ
ユニコーンをモチーフに、目には見えないけれど
確かにあるこの衝動を形にしたいと思いました。

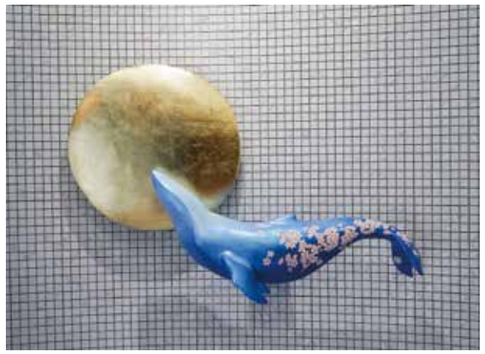
漆・水性アクリル樹脂・金属粉
H980 × W600 × D600 / 2023 年

1996　京都府出身
2019　富山大学芸術文化学部 卒業

2018　AAC2018 入選
2022　越後妻有大地の芸術祭 2022「里山アートどうぶつ園」（ナカゴグリーンパーク / 新潟）
2023　DELIRIUM（渋谷スクエア 8F CUBE/ 東京）
個展「BORN TO LOVE - 愛する為に生まれた -」（アートステージ 567/ 京都）
南砺市いなみ国際木彫刻キャンプ 2023（南砺市井波芸術の森公園 / 富山）
MONSTER Exhibition/ 優秀賞（渋谷ヒカリエ 8 CUBE/ 東京）
第 12 回 SYO サロン展 2023/KBS 京都賞（京都市美術館別館 / 京都）
艺术在浮梁 2023/ 浮梁県 浯溪ロダム公園・寒溪村（中国）
MONSTER Exhibition2023 in San Francisco/
790 Pennsylvania Residence（サンフランシスコ）

Josephine H.N. LUI

雷 康寧



Whale's Nocturne I

この月と鯨の作品は、生命のはかなさと永遠の美を讃えるものです。青色の調和と流動的な形が時間の流れを象徴し、静かでありながら強大な生命力を表現しています。月は潮の流れを導き、海と一体となって、生命と時間の循環を反映します。鯨の体に咲く桜のように、成長、開花、散りゆくことから再生に至るまで、生命の儚さと自然界の繊細なバランスを象徴しています。

ジェスモナイト / H650 × W950 × D400 / 2024 年

2012　香港浸會大學 視覺藝術院
　　視覺藝術文學士 卒業
2019　東京藝術大学大学院
　　美術研究科彫刻専攻博士前期課程 修了

2018　AAC2018 最優秀賞
2019　東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻 博士前期課程 修了
2022　個展「御室・仁和寺４．８Pro. SHZENNECTION」仁和寺白書院、京都
2022　個展「Blossoming Charisma」石川画廊、東京
2024　グループ展「？視 」Neptune Gallery、台湾
2024　個展「Shimmer in the Flow」石川画廊、東京

WATANABE SHION

渡辺 紫音

moment

私の作品制作において、ガラスとなった生物の形や質感、色調によって、目で見えない生物の周囲に広がる空間を演出することを大切にしています。

鋳造ガラスで混ざる色や透明感、削り込む事で生まれる繊細でシャープな形。私が制作した作品が、多くの人の生活に彩を与える存在になる事を目指しています。

ガラス / H40 × W150 × D55 / 2023 年

1998　大阪府生まれ
2017　港南造形高等学校 卒業（漆芸専攻）
2021　大阪芸術大学 芸術学部 工芸学科 ガラス工芸コース 卒業
　　大阪芸術大学 大学院 博士前期課程 工芸領域 入学
2023　大阪芸術大学 大学院 博士前期課程 工芸領域 卒業

2021　AAC2021 入選
　　「NEJA-ism exhibition in museum 2021」参加（福岡アジア美術館）
　　「KOGEI Art Fair Kanazawa 2021」参加（ハイアットセントリック金沢 610 室）
2022　「NEJA-ism exhibition in museum 2022」参加（兵庫県立美術館）
2023　「SICF24」参加（スパイラルホール）

AAC2023 結果報告

2023 年 10 月 10 日、学生限定立体アートコンペ「ART MEETS ARCITECTURE COMPETITION（AAC）2023」の最終審査会を、当社開発の新築マンション「(仮称) 西大井プロジェクト」（東京都品川区）にて開催いたしました。23 回目を迎えた今回は、114 点という多くのご応募をいただき、その中から、一次審査会（書類審査）にて選出された３名が、最終審査会に臨みました。

最優秀賞

KOU SHIRAKU

洪 詩楽

多摩美術大学 4年
美術学部 工芸学科 ガラス専攻

星群

大小の星たちをランダムに並べて、ライトを当ててきらきら輝く星群を表現しています。室内の空気感やマンションの住人にきらびやかな印象を与え、心をハッピーにさせる作品です。また、色彩には白と金を取り入れ、エントランスホール全体の雰囲気と調和し、一体感を高めました。

ガラス、チタン、樹脂 / H1300 × W3000 × D300 / 2023 年
西大井プロジェクト 設置

TOPICS

アート × 建築

堀田 光彦

2024 年、当社が都内に竣工したマンションのエントランスホールに、堀田光彦さんの作品「朏 -Mikazuki-」を設置いたしました。やわらかい山の稜線をモチーフにしたエントランスデザインに合わせ、堀田さんは空に浮かぶ月をテーマに作品を制作しました。
同じ型に真鍮と黒味銅という 2 種類の異なる金属をタイミングをずらして一つの鋳型に流し込む技術「吹き分け」を用いることで、自然に生まれる金属の混じり合いから、美しい月の満ち欠けが表現されています。
「吹き分け」は、花器や皿などの実用品に使われることが多く、アート作品に使用されるのは非常に珍しい技法です。また、文様のコントロールが非常に困難とされる中、堀田さんは見事に月の姿を表現しました。

朏 ー Mikazuki ー

月は自ら光らない
だれかの光があなたを照らす
優しい光をうけとめて
あなたがだれかを照らし出す

真鍮・黒味銅 / H360x W360 x D200 / 2024 年

堀田さんの現在の活動状況は 20 ページに掲載しています

Editor's note

編集後記

事務局移転のお知らせ

AAC 主催会社のアーバネットコーポレーションは、2024 年 7 月に本社を霞が関ビルディング 35 階（東京都千代田区）に移転いたしました。
新社屋のエントランスホールには、アート作品展示用の台座を設置し、若手アーティストの作品発表の場として、定期的に展示を入れ替える予定です。
移転後、初となる展示は、AAC2016 最優秀賞の古川千夏さんの作品「琳」を設置させて頂きました。
見学も随時可能ですので、ご希望の方は AAC 事務局をお尋ねください。（営業時間 9：00 ～ 18：00　土日祝休）

古川さんの現在の活動状況、作品「琳」の詳細は 19 ページに掲載しています

エントランスホール

古川さんと作品

当社マンションへのアート作品設置 実績ご紹介

29 ページでご紹介したマンション以外にも、アーバネットコーポレーションでは、自社開発マンションのエントランスホールにアート作品を設置することを創業時より継続しております。2023 年 5 月～ 2024 年 3 月に設置した作品の一部をご紹介いたします。

金俊来「Persephone」

雷康寧「Whale's Nocturne Ⅰ・Ⅱ」

渡辺紫音「遊空」

袁方洲「サクラの柱Ⅲ」

松枝悠希「The cards」

本郷芳哉「Emancipaton」

そのほか、アーバネットコーポレーションの施工事例（ワークス）はホームページからご覧頂けます。